

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成24年(2012)10月10日
No. 58
発行 高津啓洋

パラグアイ国・ミンガグアス市・自然環境再生プロジェクト 地元中学・高校生と植樹ボランティア



ミンガグアス市の中学高校生たちと植樹後



イグアス移住地の日本人会の和太鼓



市長から歓迎と感謝のあいさつ

長はじめ、市の職員、学校関係者に日本からのプレゼントを渡しました。集会後、市庁舎の前に準備された1000個の植樹の穴に苗木

植樹林の保護と市をあげて植樹継続を誓う

9月5日、初めにミンガグアス市、市長から感謝のあいさつがあり、市の職員の方から市の環境保全の計画と実行に対する説明と学校の生徒らが市の計画にのっとって実践する誓いを表明しました。

その後、パラグアイのピンを頭に乗せての伝統的な踊りがあり、日本イグアス移住地にある和太鼓

のグループによる演奏が続ぎ、最後に青年奉仕隊のメンバーによる合唱で11時ごろ集会を終えました。

青年たちの合唱の前に柴沼の方から市

を青年奉仕隊のメンバーと学生、職員が一緒になって植え付けをしました。今後、当会から3万本の苗木の寄贈が行われます。

日本の和太鼓は日本の伝統を移住地で忘れてはならないと10数年前にクラブを結成し、太鼓そのものも手作りで作っているとのことでした。集会後、彼らと一緒に食事をしました。日本人移住地の2世、3世達である彼らと奉仕隊のメンバーとは、地球環境をはじめ、将来についての様々な意見交換がなされました。

午後は午前中の集会に参加したカソリックの中高生の学校の庭に100本の木を植えました。チャコ地方の土壌と違い地味豊かな土地で、木々の成長が楽しみです。その後は、サッカーでの交流会になりました。

奉仕隊の青年たちは、9月11日に全員元気に成田に到着しました。

【お知らせ】 2013年もパラグアイでの植樹ボランティアを継続していきます。皆様からの温かい支援をお願いいたします。